

## 【共通項目】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

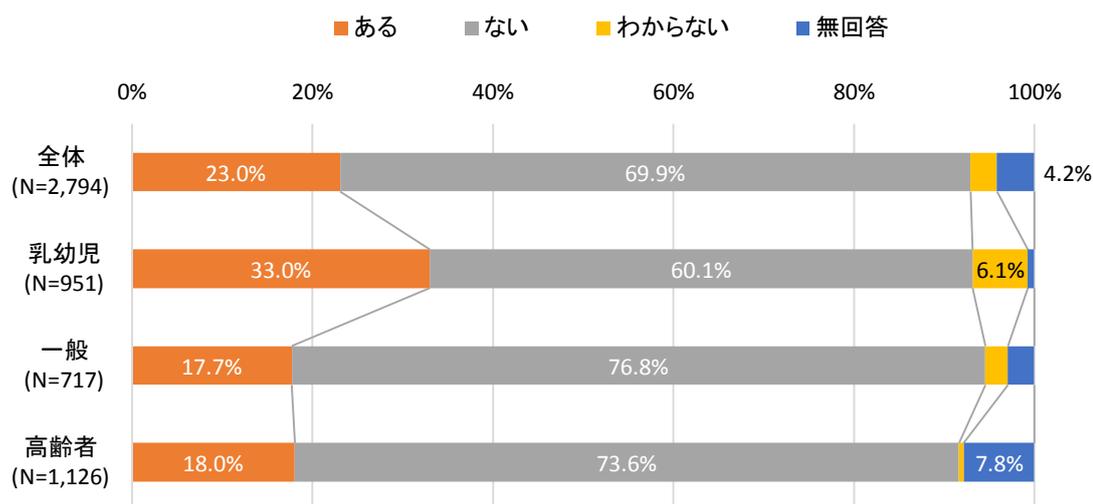
## 1 交通安全について

## 【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（乳幼児・一般・高齢者）

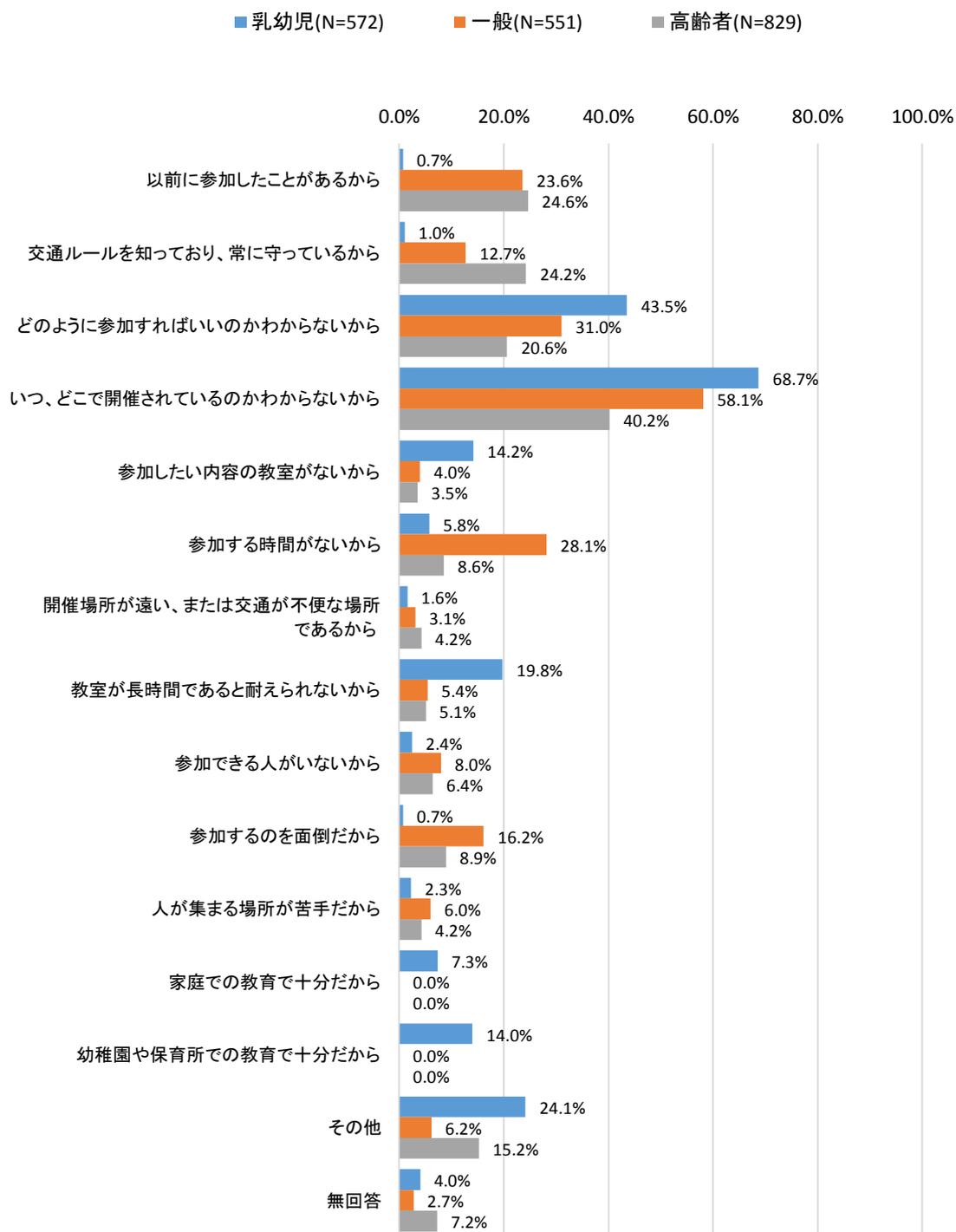
交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「ない」が、全体で69.9%、乳幼児が60.1%、一般が76.8%、高齢者が73.6%となっており、乳幼児に比べ、一般、高齢者の参加率が高くなっている。

交通安全教室に参加したことがない理由については、「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が、乳幼児が68.7%、一般が58.1%、高齢者が40.2%と最も高くなっており、次いで「どのように参加すればいいのかわからないから」が高くなっており、交通安全教室の広報周知が不足していることがわかる。

（1年間（平成25.10～平成26.9）の交通安全教室参加状況）



(交通安全教室に参加したことがない理由)



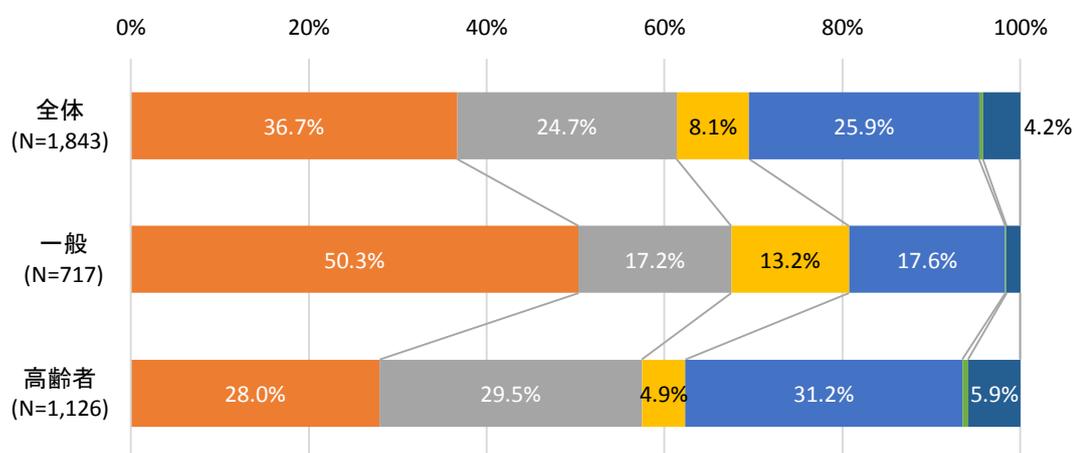
【自動車運転中のヒヤリとした経験について】（一般・高齢者）

自動車運転中に自分の不注意によってヒヤリとした経験の有無については、「ある」が、全体で 36.7%、一般が 50.3%、高齢者が 28.0%となっており、高齢運転者に比べ、一般運転者は不注意な運転が多いことがわかる。

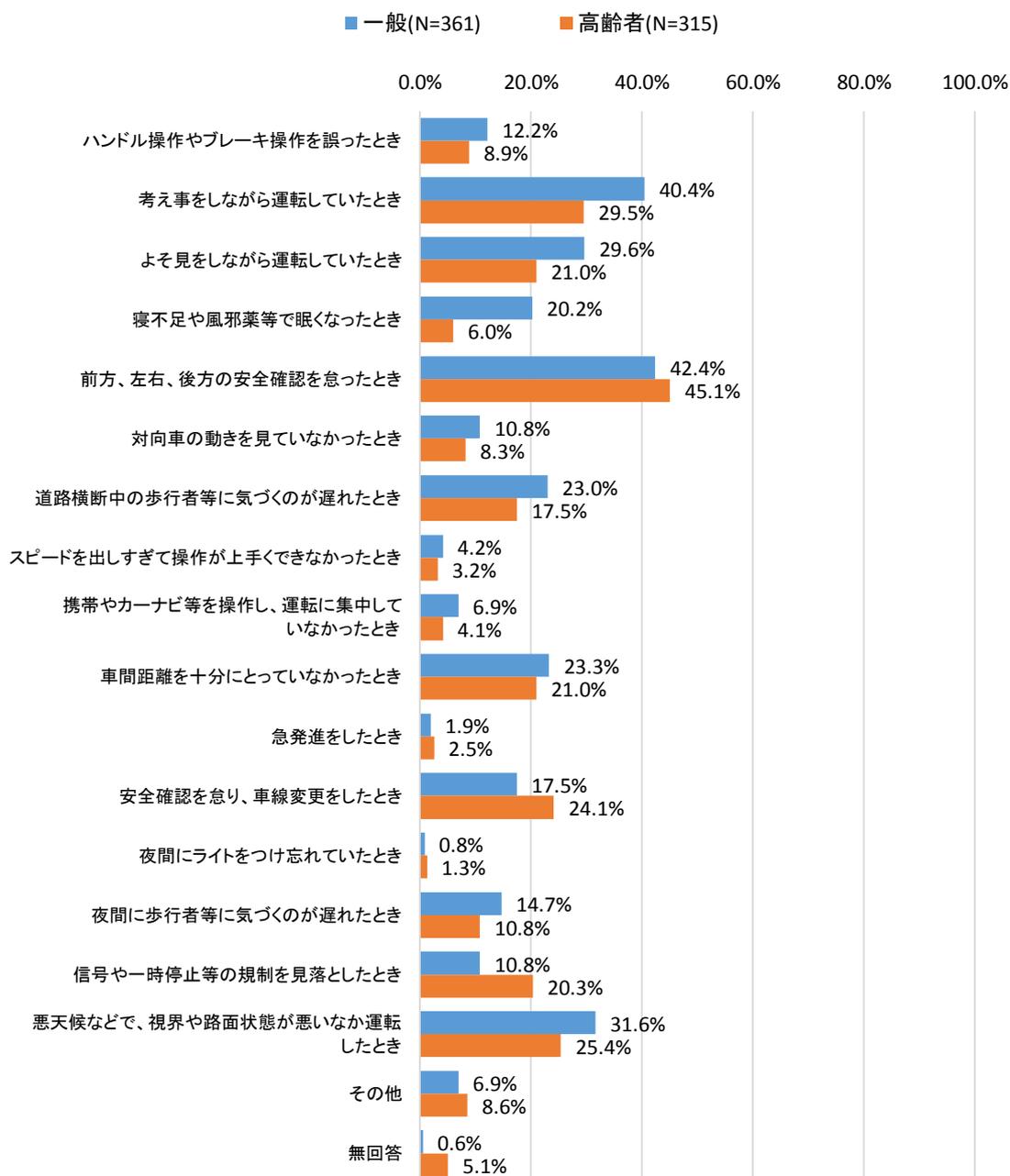
ヒヤリとしたときの状況については、一般については「考え事をしながら運転していたとき」、「前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき」が約 4 割、高齢者については「前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき」が約 5 割となっている。

（自動車運転中に自分の不注意によってヒヤリとした経験の有無）

■ ある   
 ■ ない   
 ■ 自分の不注意以外でヒヤリとしたことがある(相手の飛び出しなど)   
 ■ 自動車は運転しない   
 ■ わからない   
 ■ 無回答



(ヒヤリとしたときの状況)

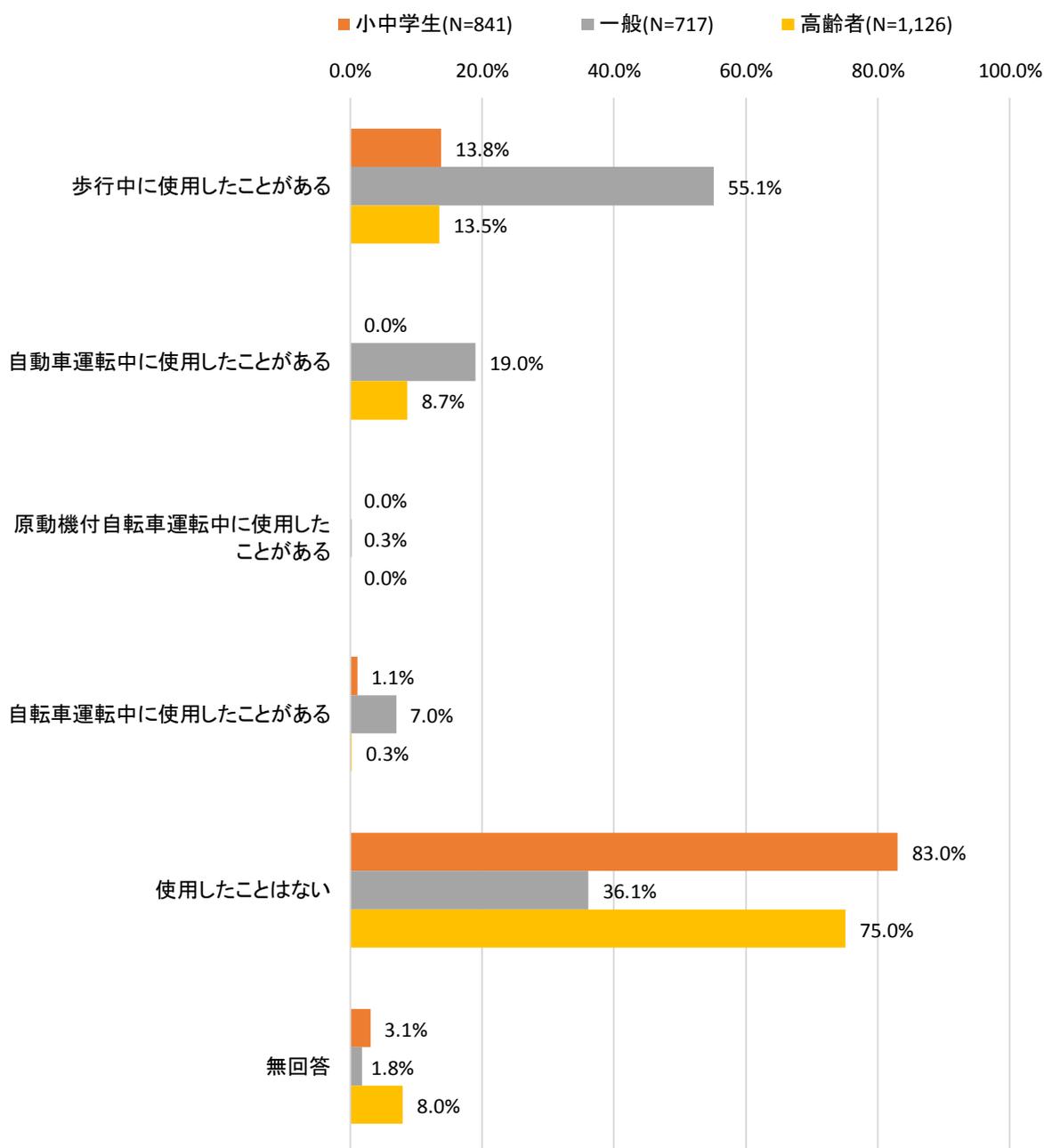


【歩行中や自転車・自動車等運転中の携帯電話使用について】（小中学生・一般・高齢者）

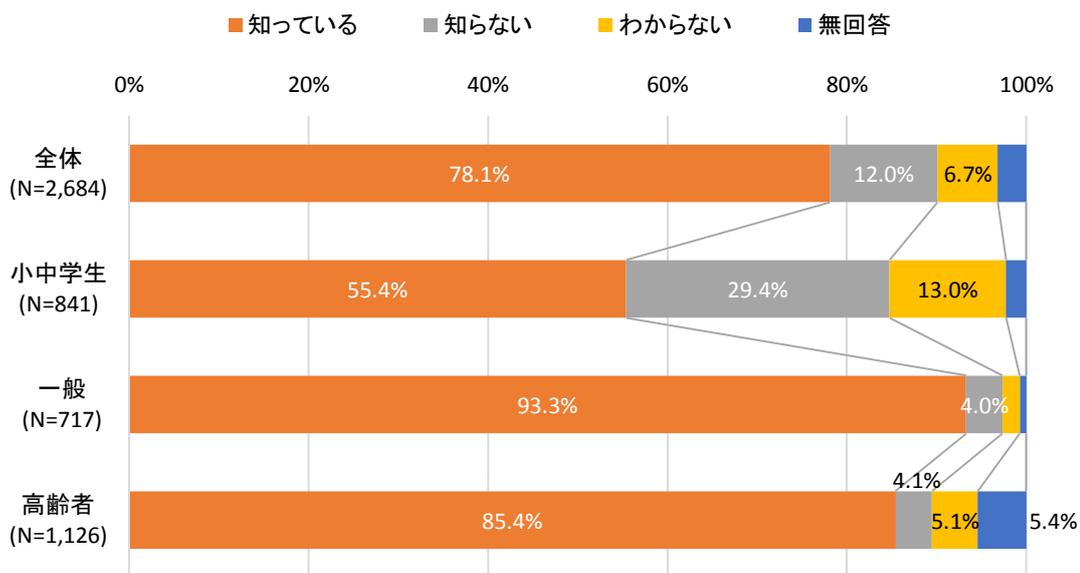
歩行中や自転車・自動車等運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用経験については、一般では「歩行中に使用したことがある」が約6割、小中学生・高齢者では、「使用したことがない」が約8割となっている。

自転車・自動車等運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律違反であることの認知度については、「知っている」が、全体で78.1%、小中学生が55.4%、一般が93.3%、高齢者が85.4%となっており、小中学生の認知度が特に低くなっていることがわかる。

（歩行中や自転車・自動車等運転中の携帯電話使用の有無）



(自転車・自動車等運転中の携帯電話使用が法律違反であることの認知度)



【道路横断時の行動について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合の利用については、「必ず利用している」が全体で 69.4%、乳幼児が 72.8%、小中学生が 60.0%、一般が 64.3%、高齢者が 76.7%となっており、全区分において高齢者が最も高くなっている。

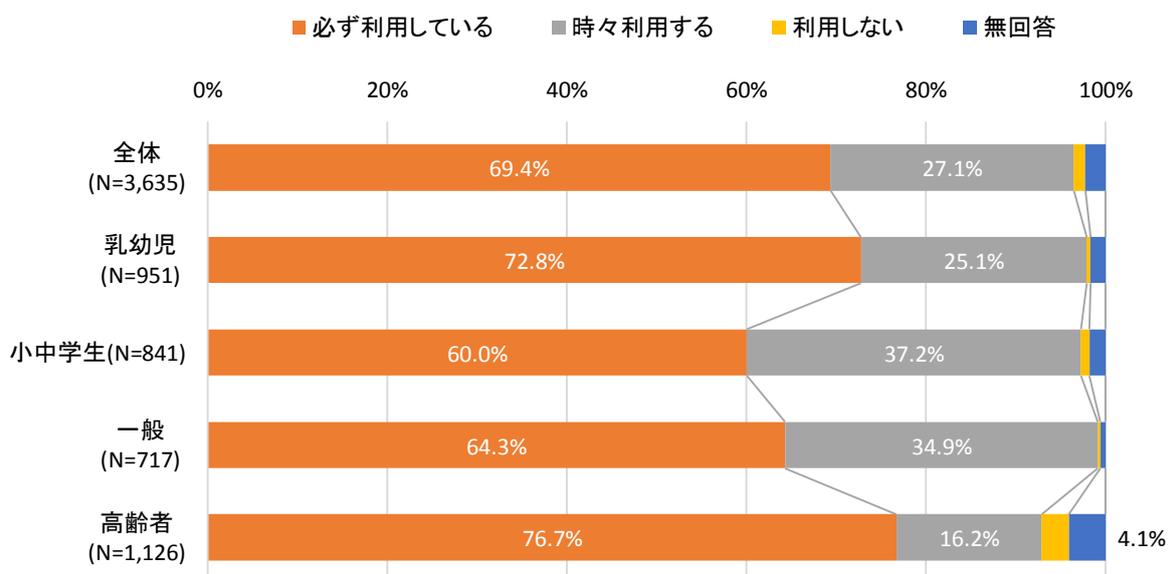
横断歩道を利用しない理由については、乳幼児の「面倒くさいから」、「遠回りになるから」が5割以上で、その他区分においては回答にばらつきがある。

道路を横断する際の安全確認については、「しっかり確認している」が、全体で 79.6%、乳幼児が 83.6%、小中学生が 75.6%、一般が 74.9%、高齢者が 82.2%となっている。

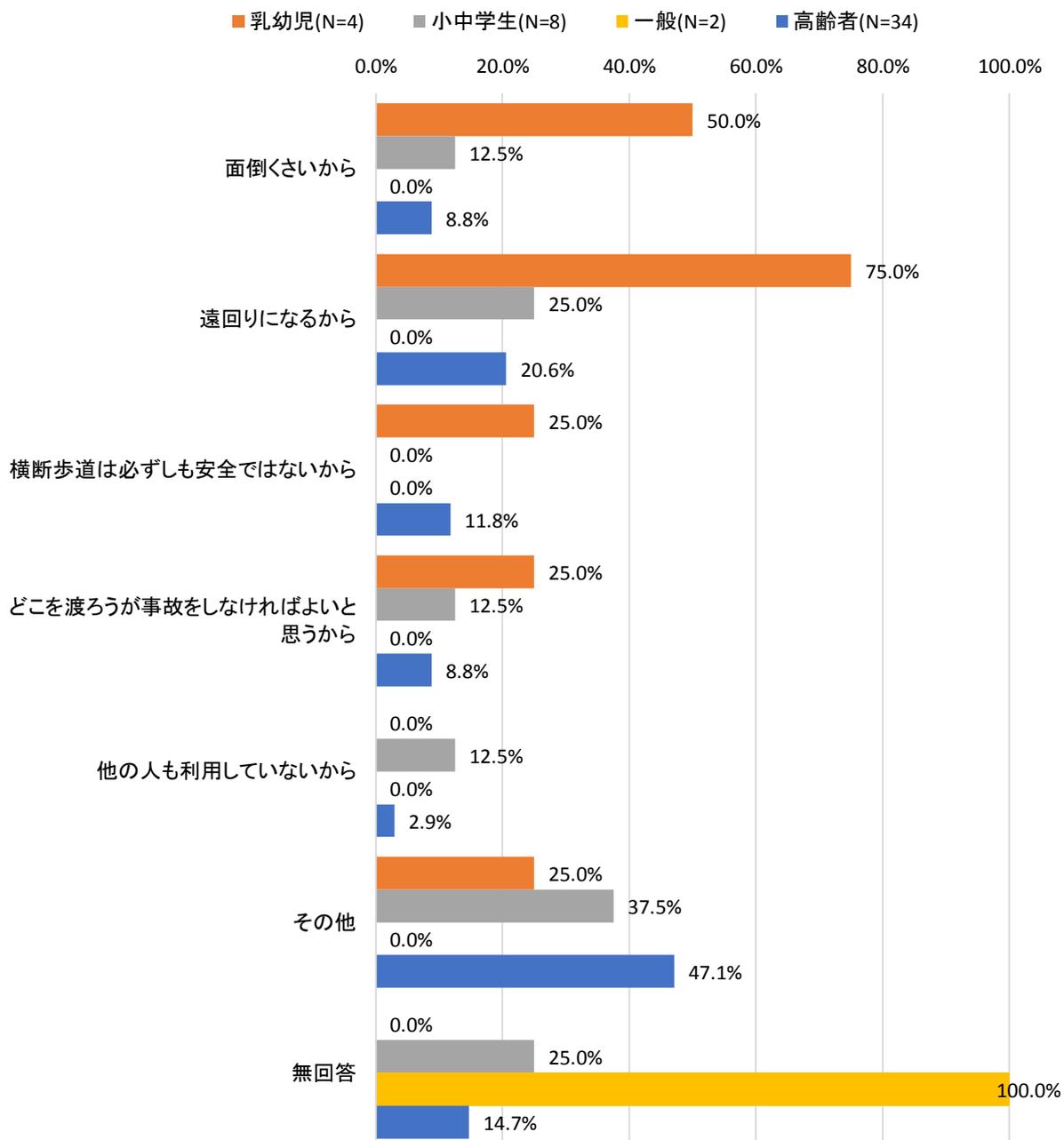
歩行中に信号機をついた横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っているかについては、「守っている」が、全体では 76.0%、乳幼児が 70.9%、小中学生が 70.5%、一般が 69.7%、高齢者が 88.5%となっており、全区分において高齢者が最も高くなっている。

ルール（信号）を守らないことがある理由については、乳幼児・小中学生では「信号を待つのが面倒くさいから」、「自分で安全確認をしているから」、一般・高齢者では「自分で安全確認をしているから」を上位に挙げている。

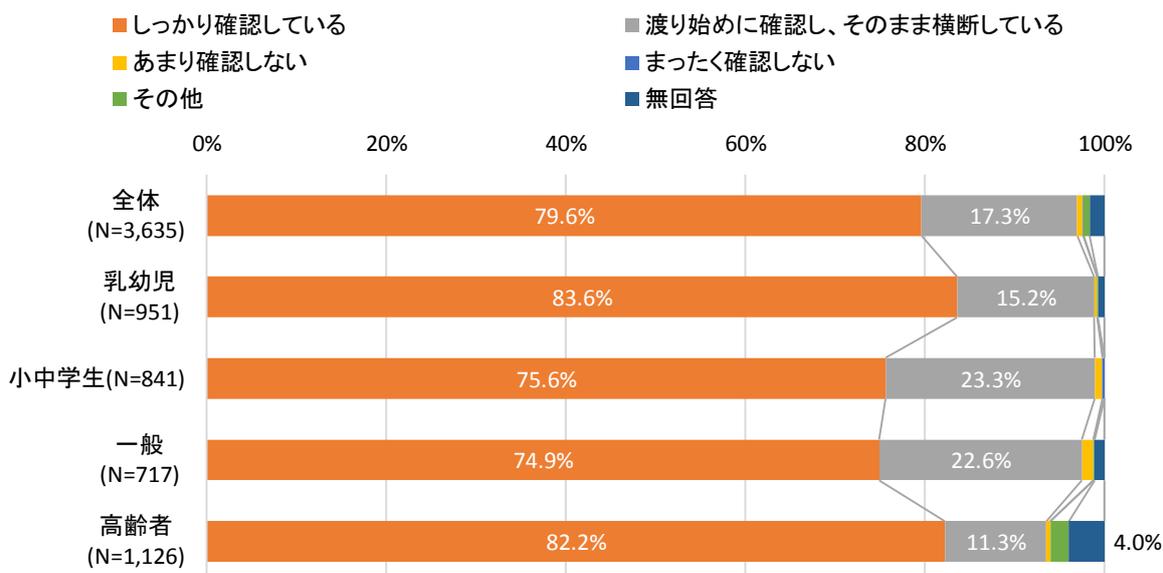
（横断歩道利用の有無）



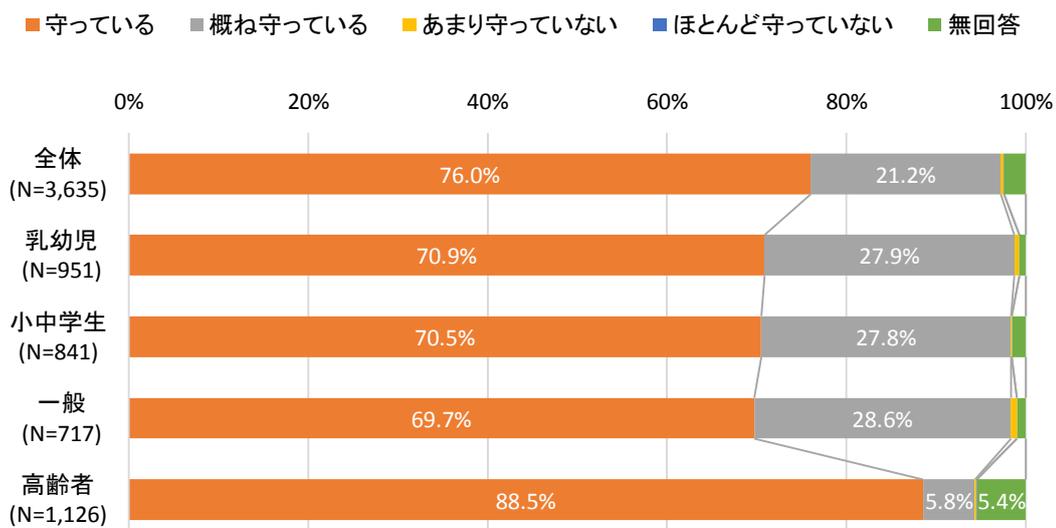
(横断歩道利用を利用しない理由)



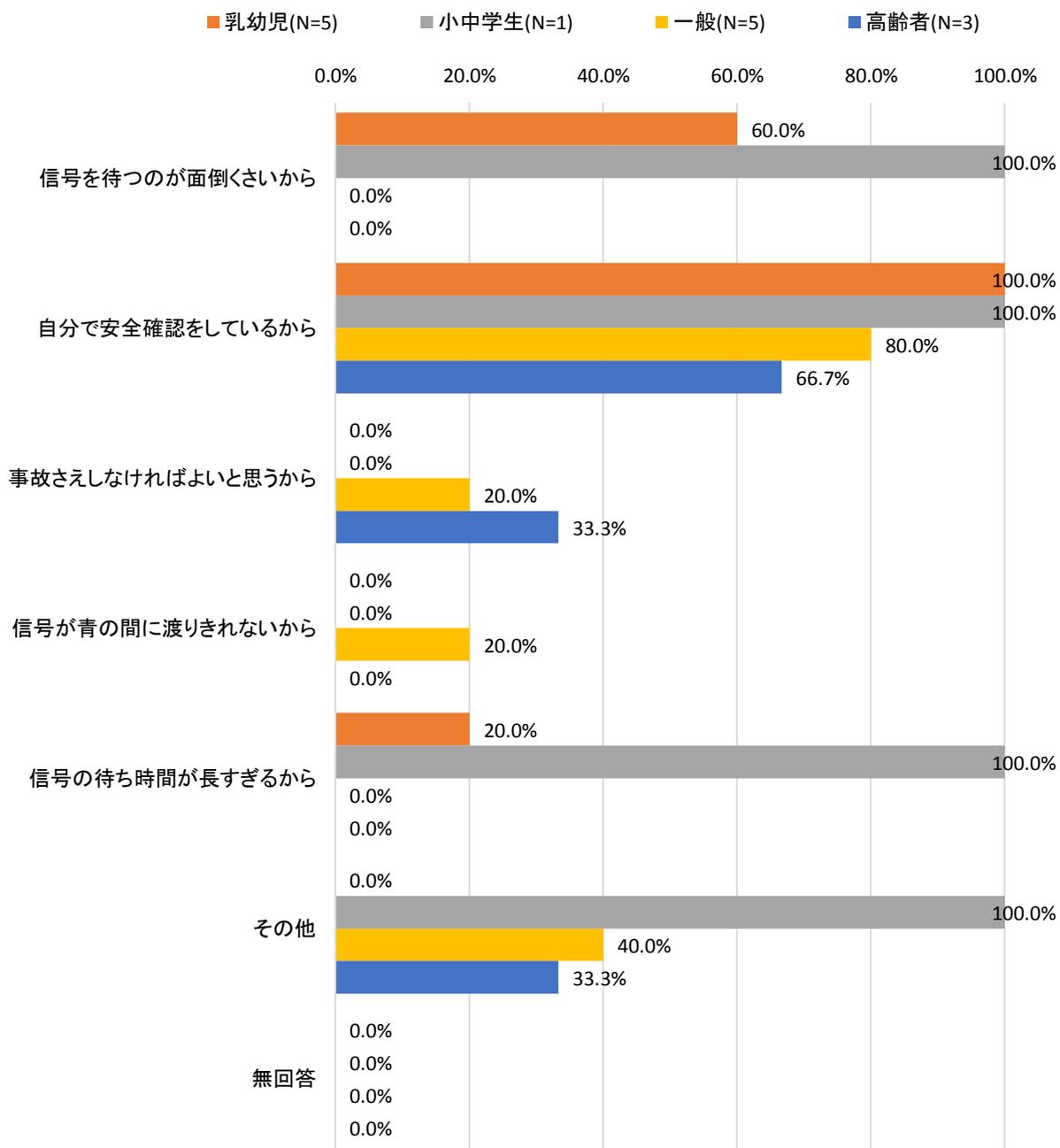
(道路を横断する際の安全確認の有無)



(横断歩道を渡る際にルール(信号)を守っているか)



(ルール (信号) を守らないことがある理由)



## 2 子どもの安全について

### 【子育てへの支援について】（乳幼児・小中学生・一般）

自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということを考える機会について、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が、全体で28.6%、乳幼児が27.2%、小中学生が28.9%、一般が31.9%となっている。

保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話をしたくないと思うときがあるかについて、「ほとんどいつもそう思う」と「たまにそう思う」の合計が、全体で58.6%、乳幼児が61.0%、小中学生が59.7%、一般が47.8%となっている。

子育てで困ったときの相談先の有無については、「ある」が、全体で93.9%、乳幼児が96.3%、小中学生が93.3%、一般が87.8%となっている。

子育てで困ったときの具体的な相談先については、乳幼児・小中学生・一般ともに「夫婦で話し合いをする」、「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が約8割となっている。

子育ての支援者については、乳幼児・小中学生・一般ともに「配偶者」、「親・兄弟姉妹・親戚」が約8割以上になっている。

子どもの一時預かり施設などの利用状況については、各施設において以下の通りになっている。

Aファミリー・サポート・センターの利用については、「有」が、全体で4.5%、乳幼児では4.5%、小中学生が4.8%、一般が3.1%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で66.7%、乳幼児が69.8%、小中学生が62.5%、一般が71.4%となっている。

B保育園の利用については、「有」が、全体で20.9%、乳幼児が18.2%、小中学生が24.6%、一般が18.2%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で58.3%、乳幼児が56.6%、小中学生が60.9%、一般が52.4%となっている。

C幼稚園の利用については、「有」が、全体で36.3%、乳幼児が26.6%、小中学生が48.4%、一般が32.5%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で54.5%、乳幼児が49.4%、小中学生が58.7%、一般が49.4%となっている。

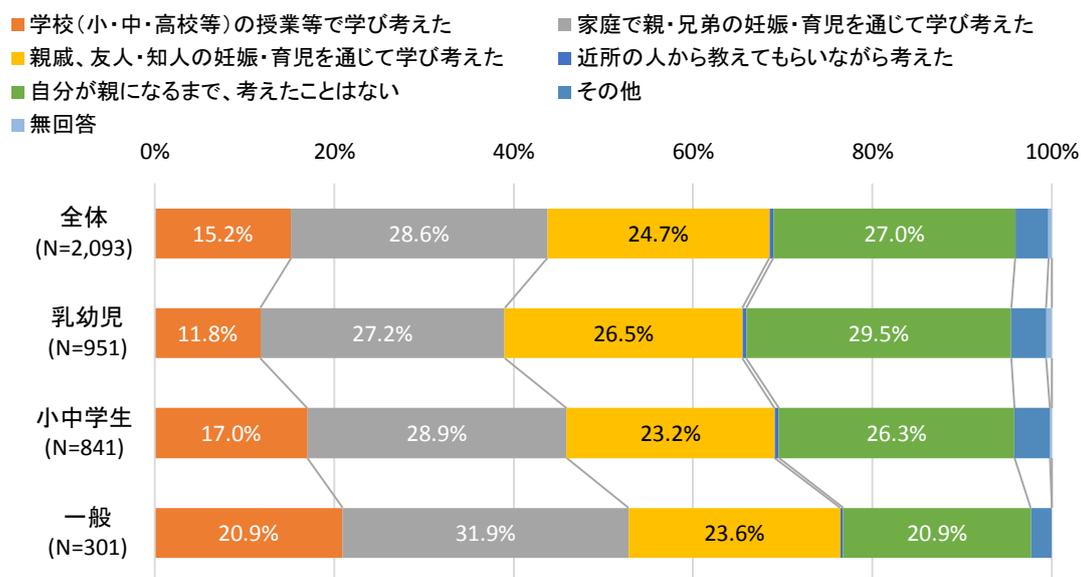
Dすこやか子育て交流館（りぼんかん）の利用については、「有」が、全体で4.3%、乳幼児が6.3%、小中学生が2.1%、一般が4.0%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で87.4%、乳幼児で88.3%、小中学生で88.9%、

一般で77.8%となっている。

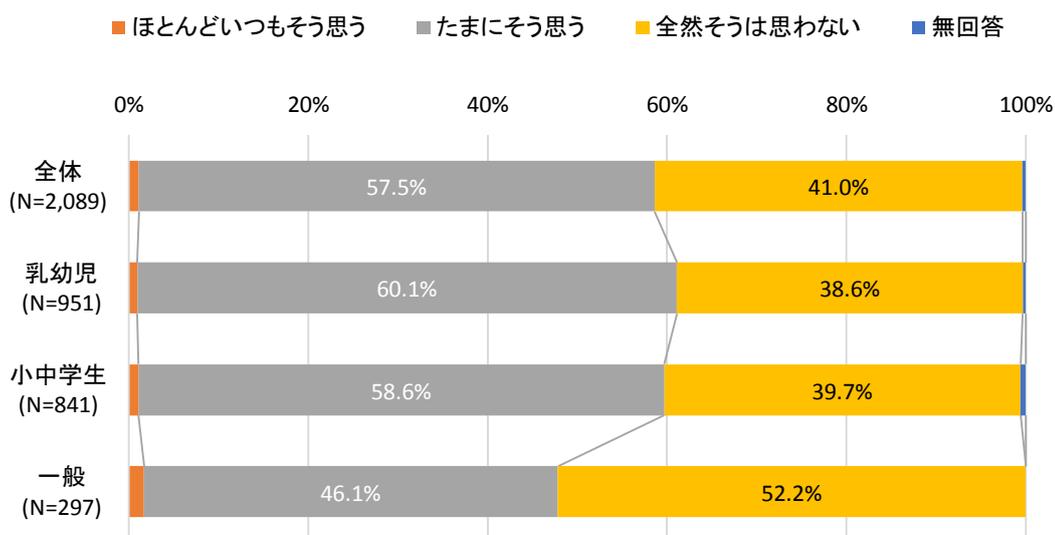
現在の子育て支援の活用状況については、乳幼児・小中学生・一般ともに「保育園や幼稚園への通園」を最も上位に挙げている。

充実して欲しい子育て支援については、乳幼児・小中学生・一般ともに「保育園や幼稚園への通園」、「子どもの発達相談や健診」、「地区ごとの子ども行事」が上位で、小中学生・一般では「保護者への心理相談」も上位に挙がっている。

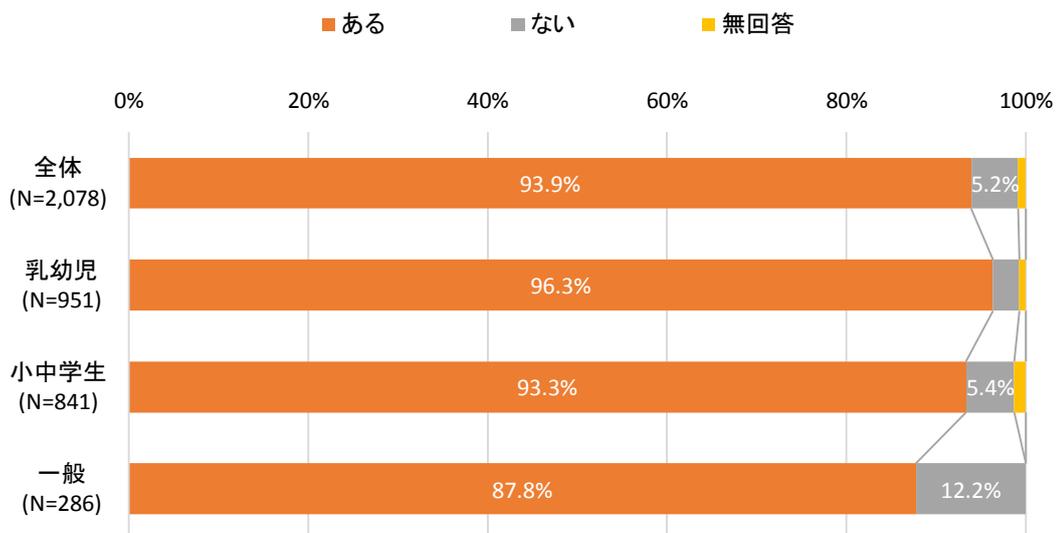
(親になる前に妊娠や子育てについて考える機会があったか)



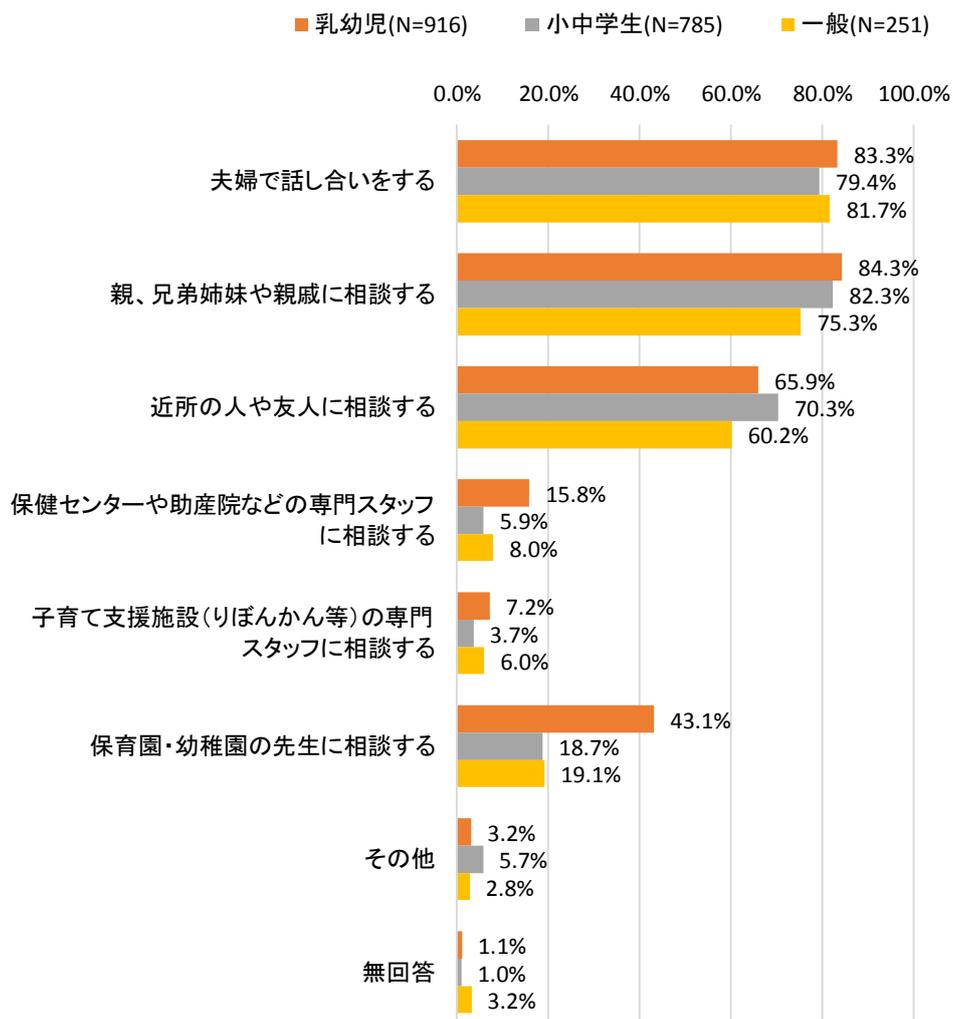
(子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うことがあるか)



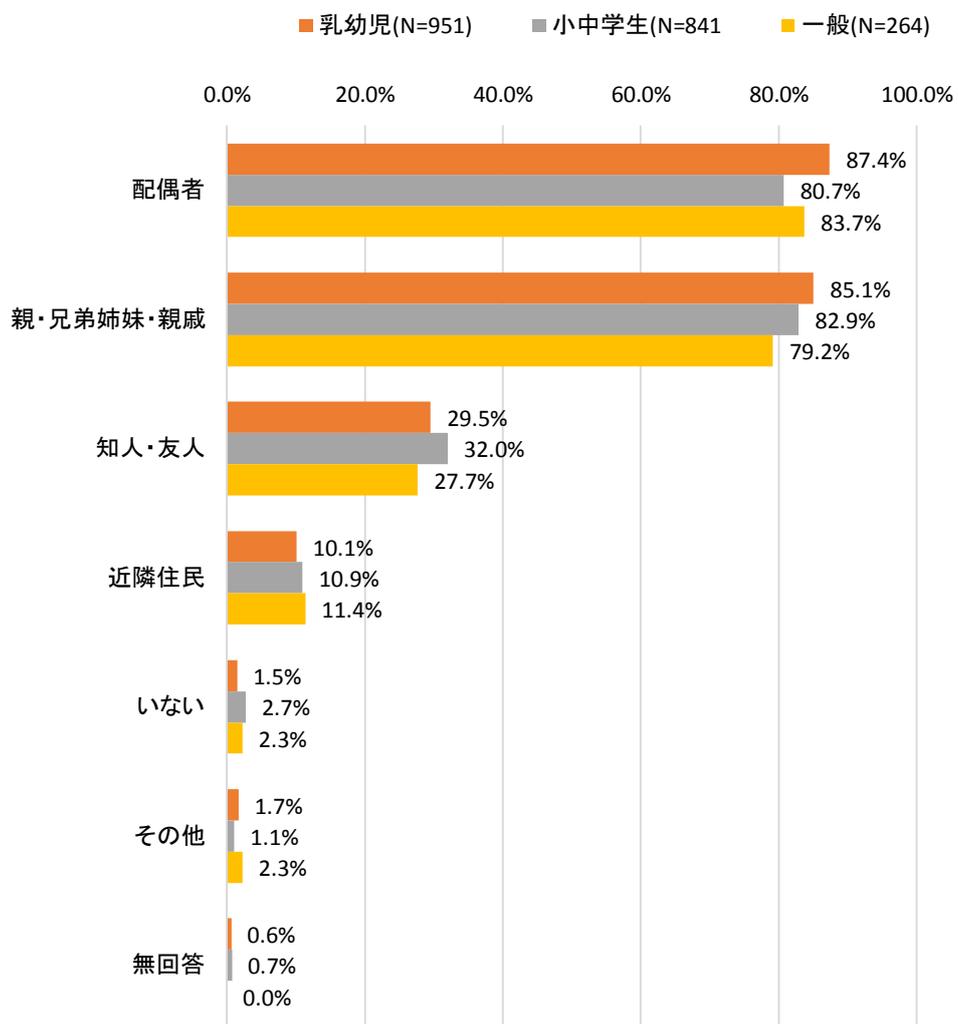
(子育てで困ったときの相談先の有無)



(子育てで困ったときの具体的な相談先)

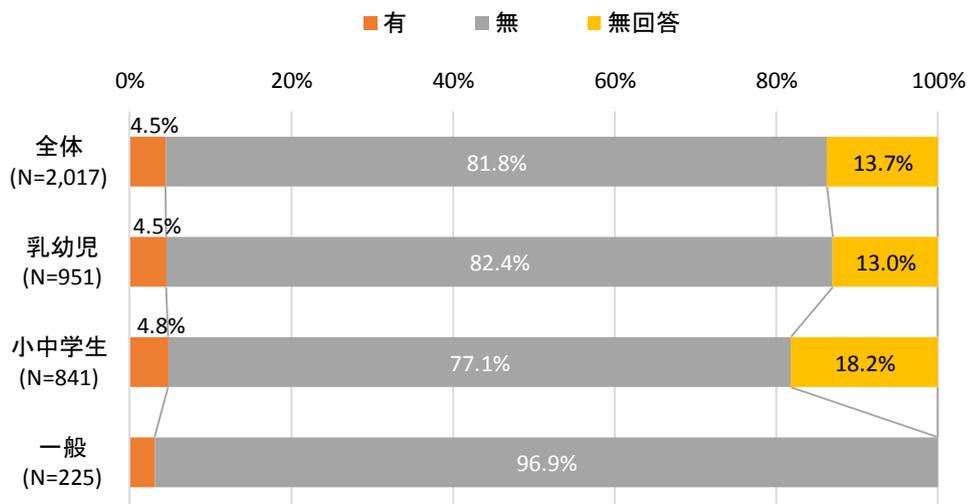


(子育ての支援者の有無)

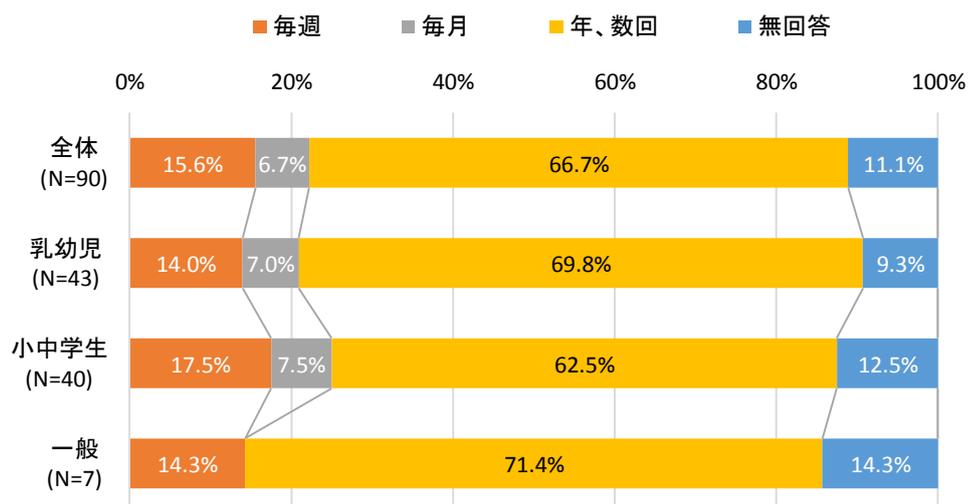


(子どもの一時預かりの施設等の利用状況)

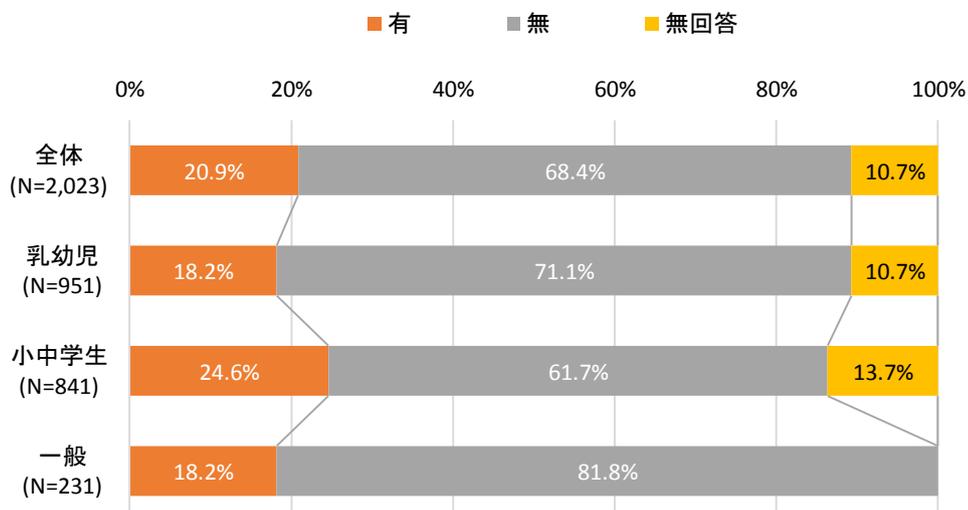
A.ファミリー・サポート・センターの育児支援(利用の有無)



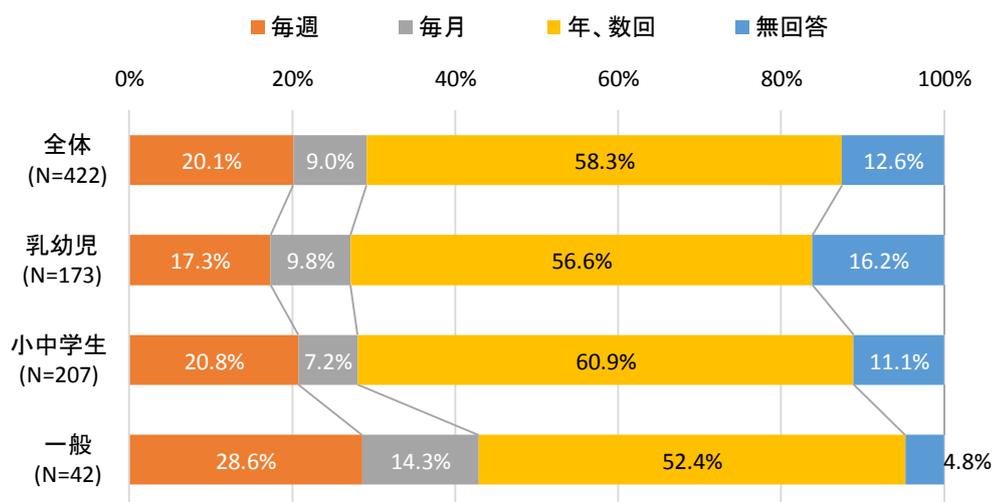
A.ファミリー・サポート・センターの育児支援(利用頻度)



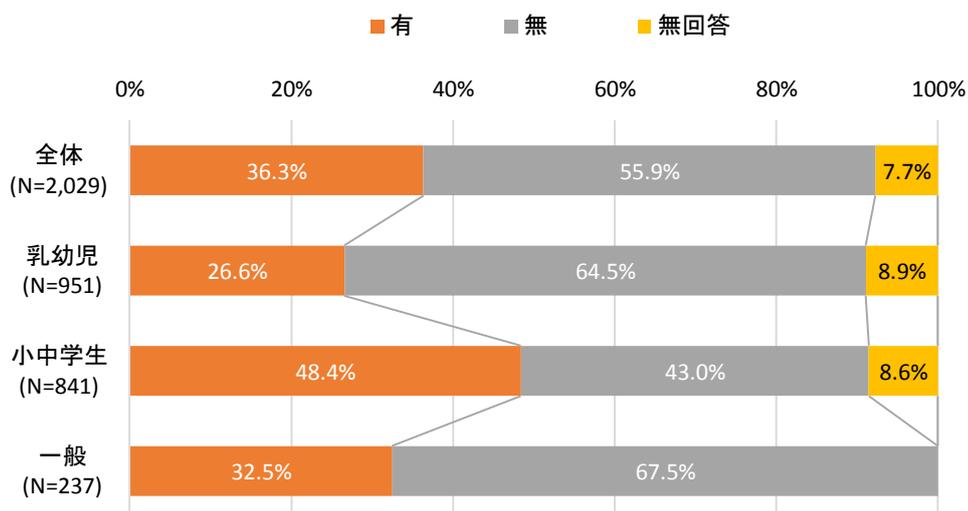
B 保育園の一時預かり(利用の有無)



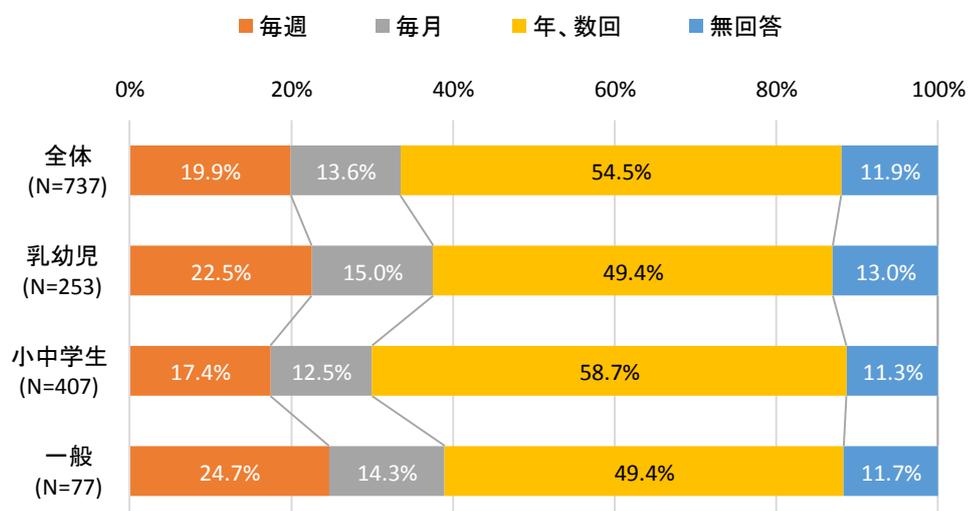
B. 保育園の一時預かり (利用頻度)



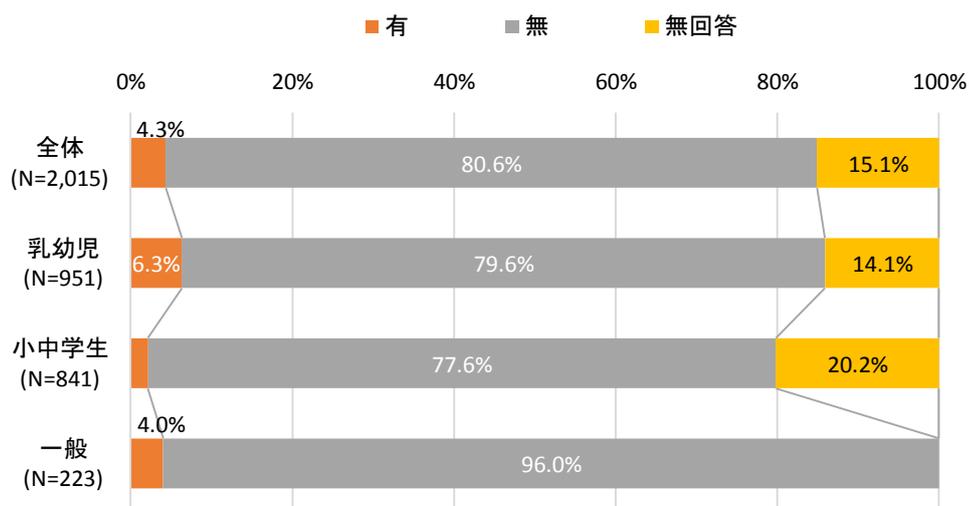
C. 幼稚園の預かり保育 (利用の有無)



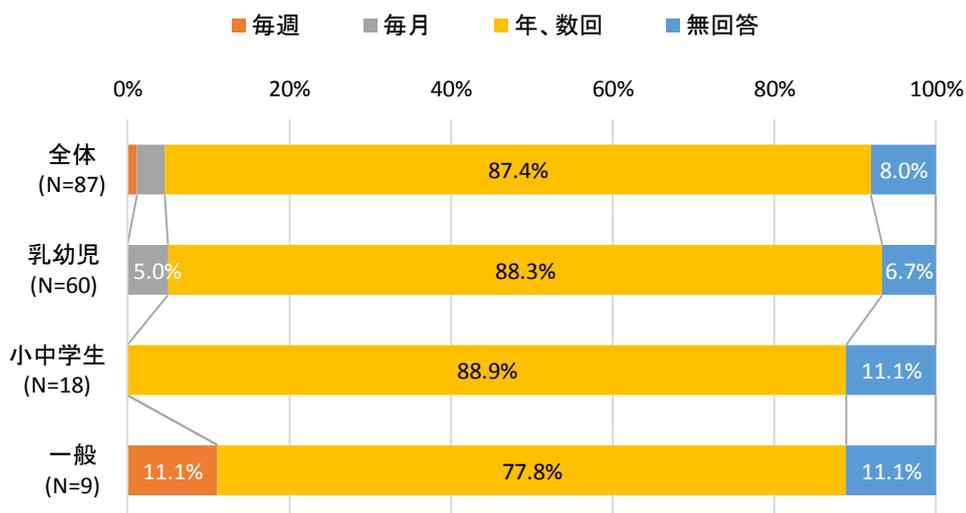
C. 幼稚園の預かり保育 (利用頻度)



D. すこやか子育て交流館(りぼんかん)の一時預かり(利用の有無)

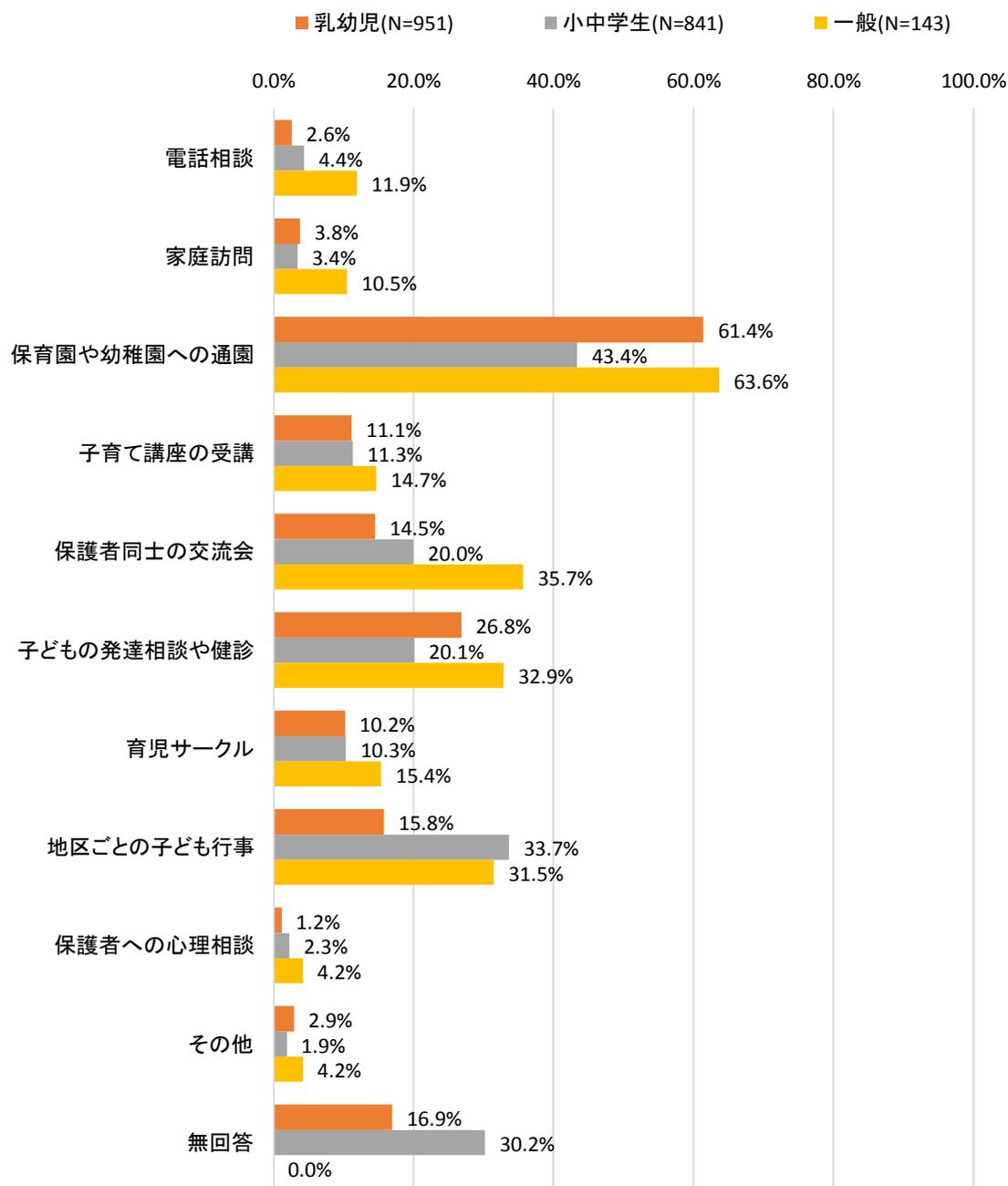


D. すこやか子育て交流館(りぼんかん)の一時預かり(利用頻度)

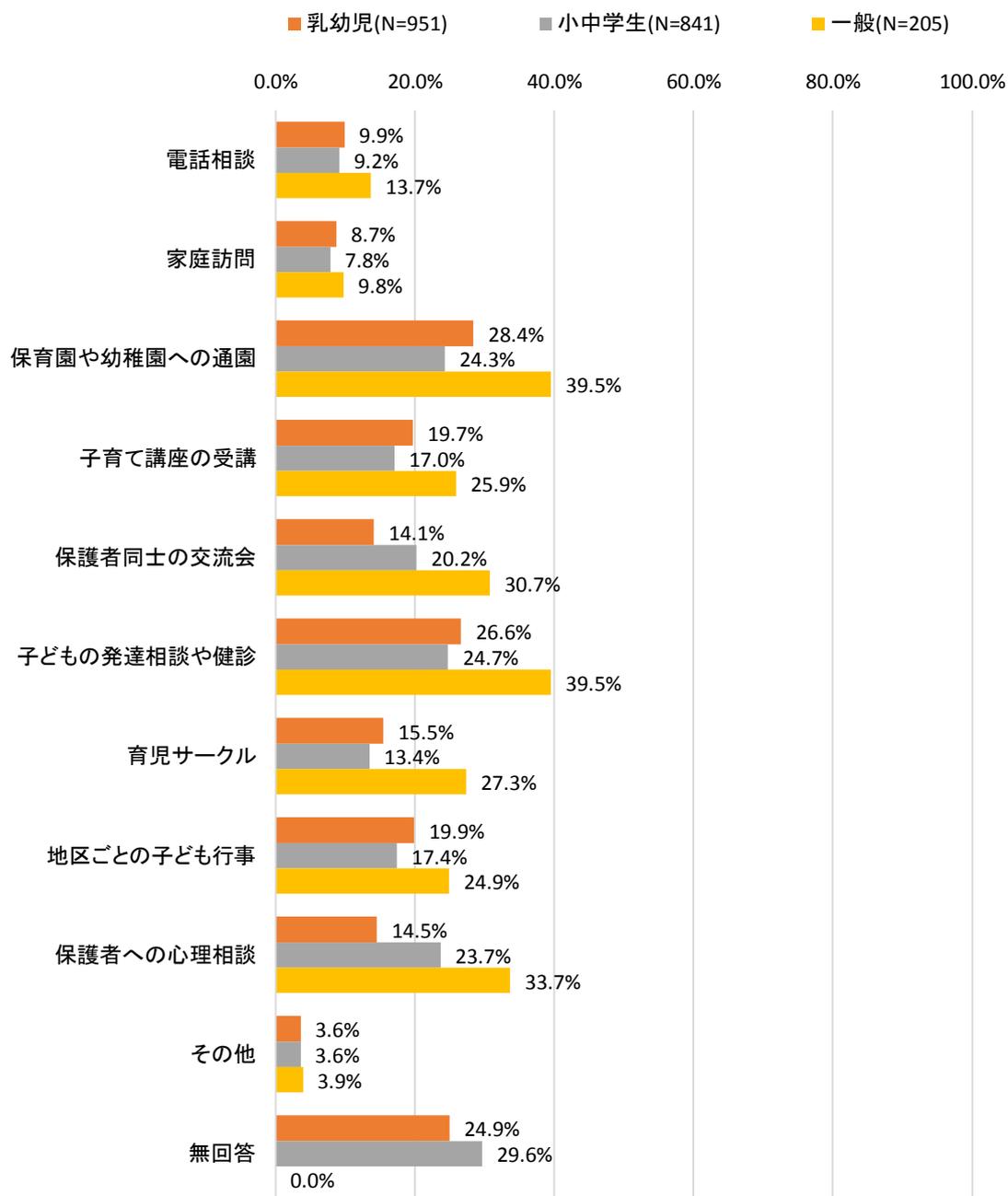


(子育て支援の活用状況、充実してほしい子育て支援)

【現在活用している】



【充実して欲しい】



### 3 自殺について（一般・高齢者）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が、全体で6.6%、一般が9.9%、高齢者が4.4%となっている。

なお、自殺を考えたときの一番の原因として、全体では「健康問題」、一般が「家庭問題」、高齢者が「健康問題」を最も上位に挙げている。

また、自殺したいと考えたときの相談については、半数以上がともに「相談していない」としている。

自殺したいと思った原因による、精神的苦痛などのための医療機関受診の有無については、「ある」が、全体で19.0%、一般で23.9%、高齢者で12.0%となっている。

自殺に関する相談場所の認知度については、「知っている」が、全体で31.7%、一般が40.0%、高齢者が26.5%となっている。

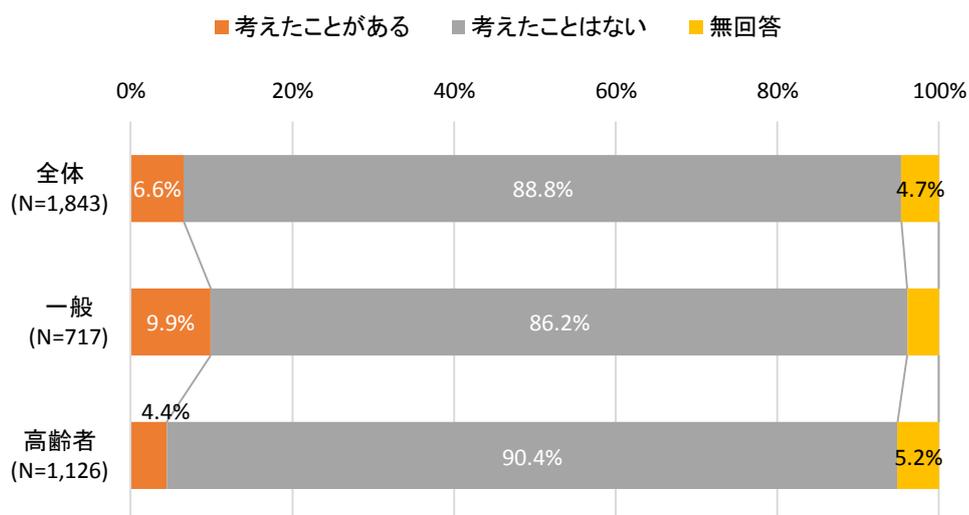
自殺の考えの有無と相談場所の認知度については、一般・高齢者ともに、自殺の考えの有無にかかわらず、相談場所を「知らない」が5割以上になっている。

あればよいと思う自殺に関する相談場所については、一般・高齢者ともに「ショッピングセンター」が最も上位で、一般は「図書館」、高齢者は「デパート」と続いている。

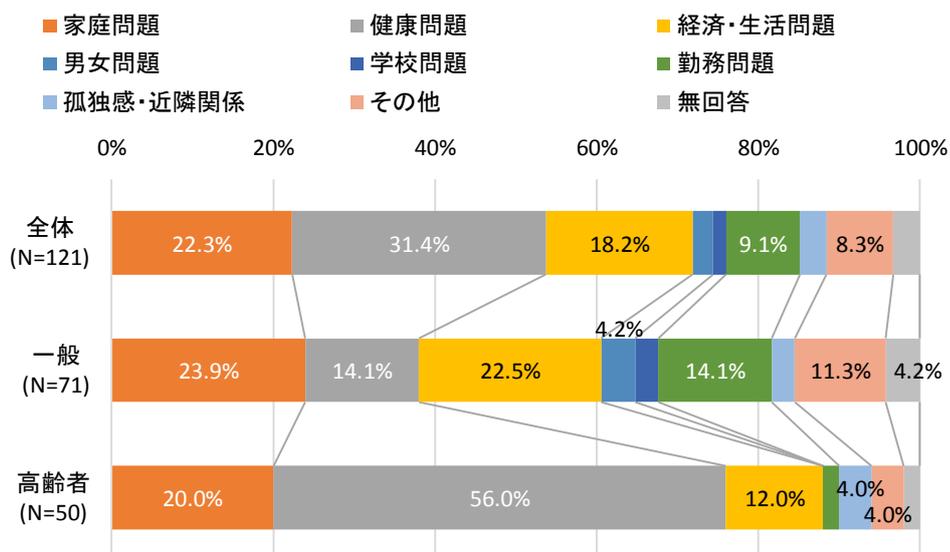
相談場所を利用しやすい時間帯については、一般では「【平日】18:00以降」(43.7%)、高齢者では「【平日】10:00～12:00」(35.0%)が上位になっている。

自殺に関する知識については、一般、高齢者ともに「自殺は防ぐことができる」、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が4割以上になっている。

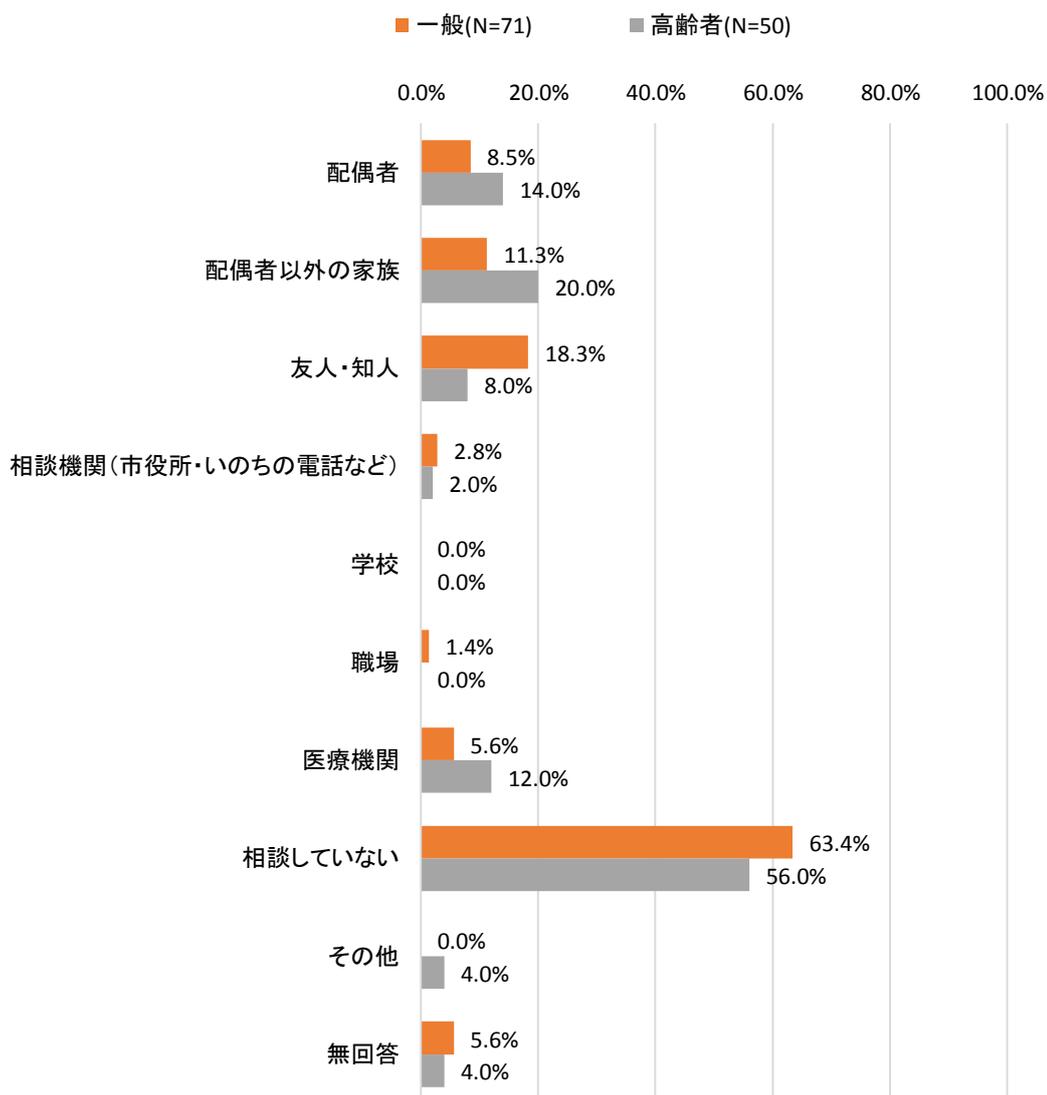
(自殺したいと考えたことがあるか)



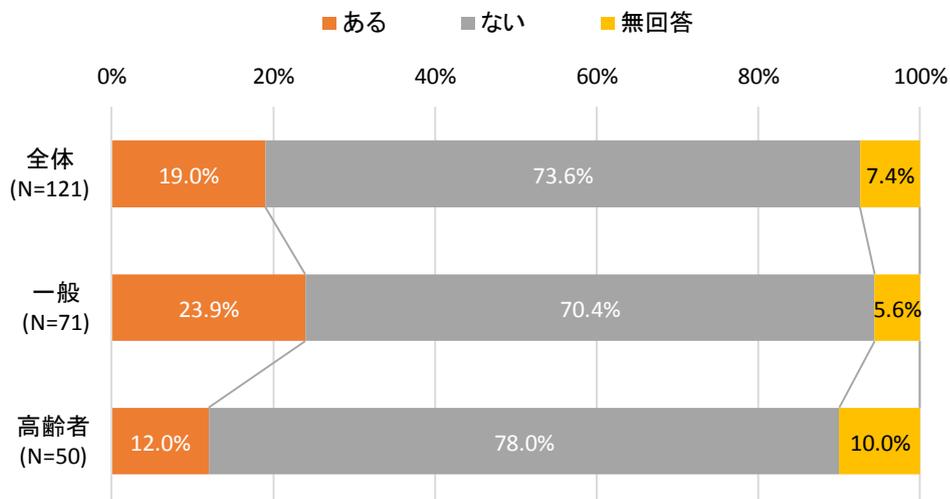
(自殺したいと考えたときの一番の原因)



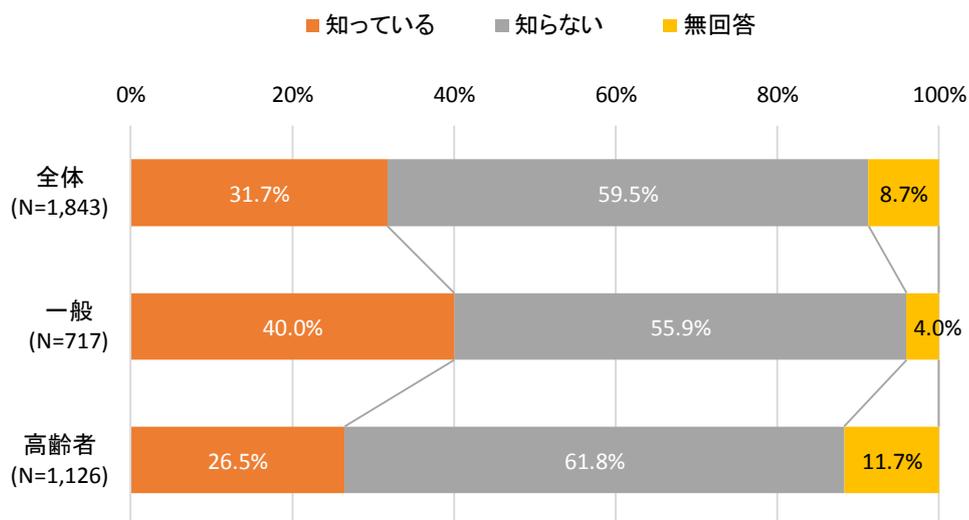
(相談の有無とその相談場所)



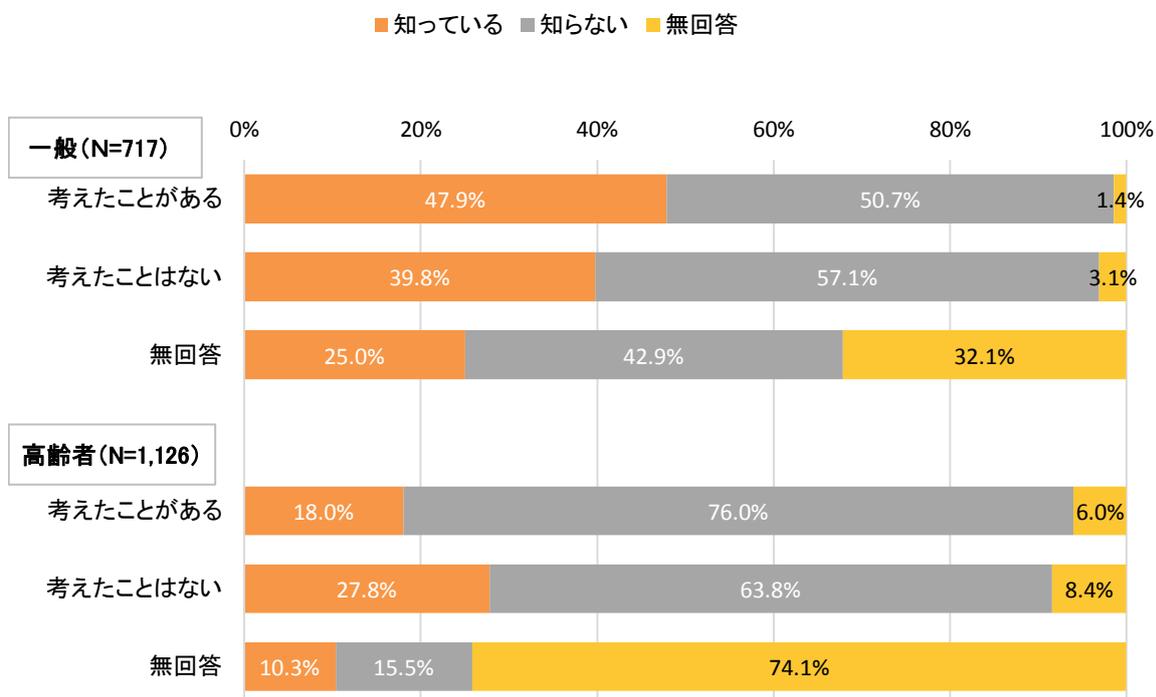
(医療機関受診の有無)



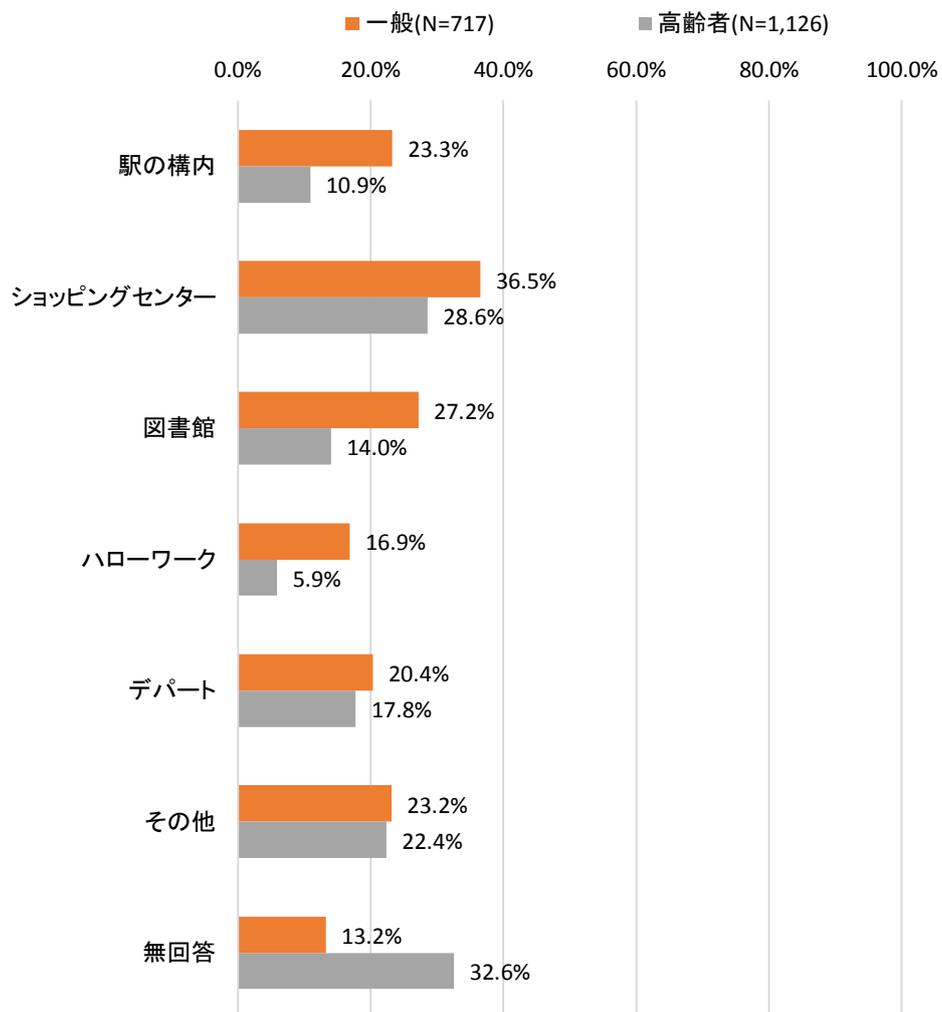
(自殺に関する相談場所の認知度)



(自殺の考えの有無と相談場所の認知度)

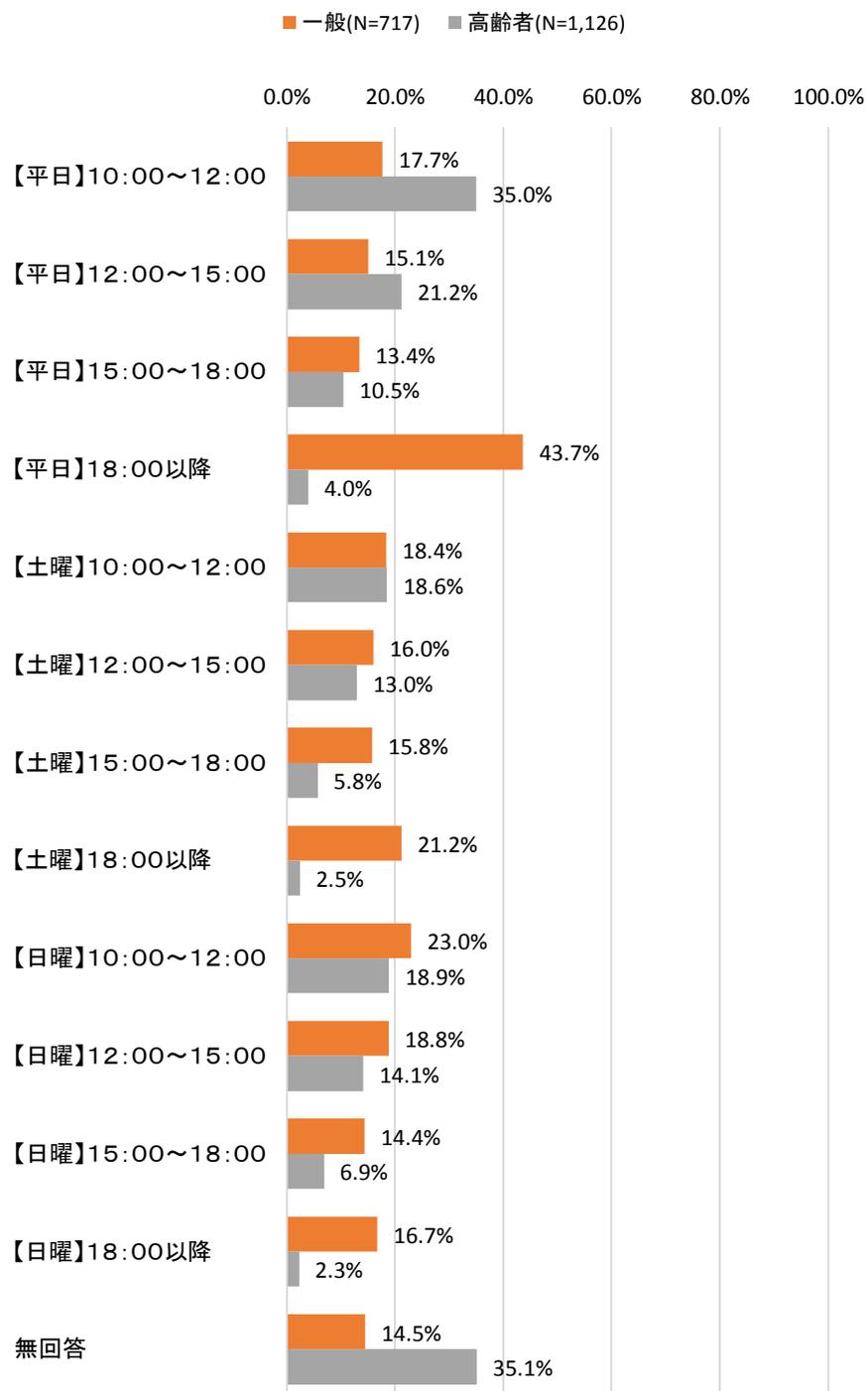


(あればよいと思う自殺に関する相談場所)

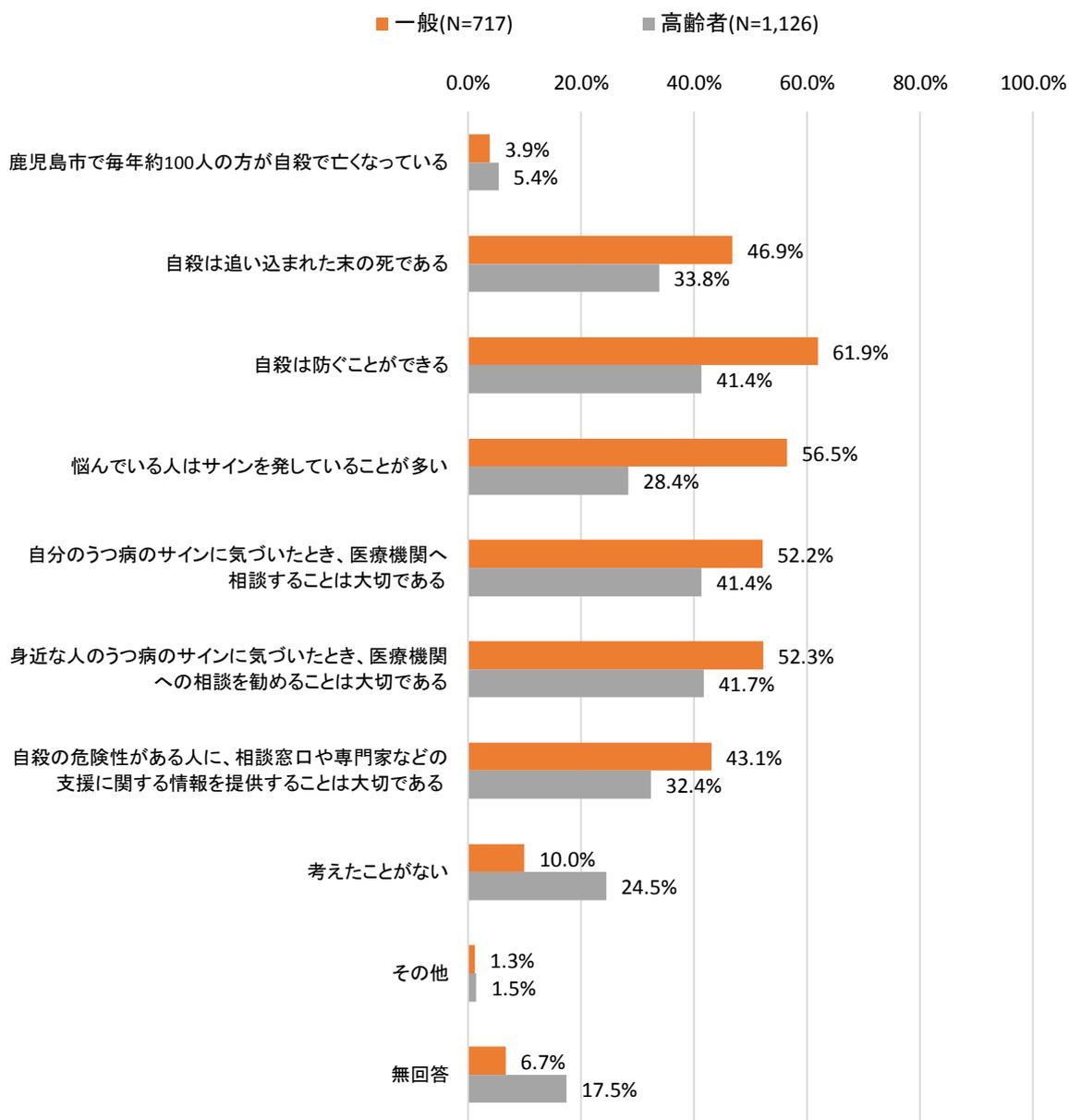


【総括】

(相談場所を利用しやすい時間帯)



(自殺に関する知識)



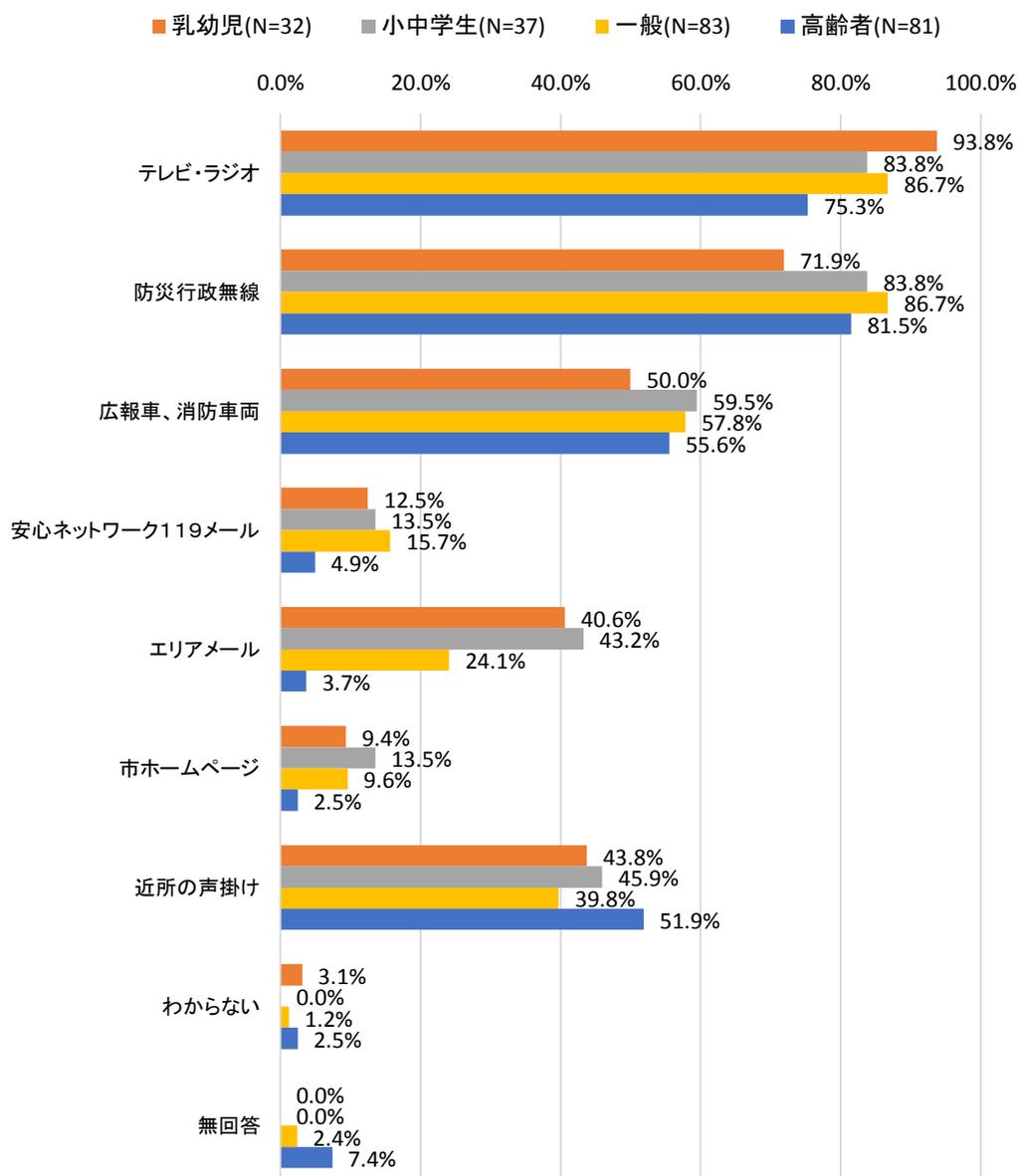
桜島にお住まいの方の防災対策について（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

桜島大噴火時の避難情報の収集方法については、各区分ともに「テレビ・ラジオ」、「防災行政無線」を上位に挙げている。

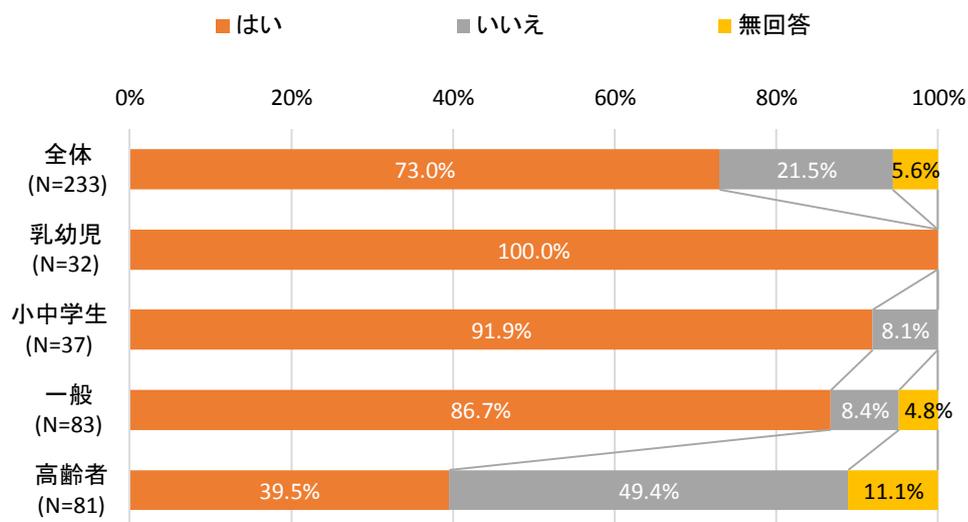
携帯電話を持っているかについては、「はい」が、全体で 73.0%、乳幼児が 100.0%、小中学生が 91.9%、一般が 86.7%、高齢者が 39.5%となっている。

「避難勧告」が出される前に、自主避難したことを周囲に伝える方法については、乳幼児・一般では「わからない」、小中学生では「近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」、高齢者では「町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」が最も上位に挙げられている。

（桜島大噴火時の避難情報の収集方法）



(携帯電話保有の有無)



(自主避難したことを周囲に伝える方法)

